

近隣公園における水辺の存在価値に関する研究

関西大学大学院工学研究科
関西大学大学院工学研究科
関西大学工学部

学生員 ○宮部 修一
正会員 和田 安彦
正会員 尾崎 平

1. はじめに

近年，我が国では 21 世紀初頭を目途に，欧米諸国並みに一人当たりの公園面積を概ね 20m²確保することを目標とした第六次都市整備等七箇年計画に基づいた公園整備が進んでいる．その中で，水辺の魅力に着目し，水辺を取り入れた水辺公園整備が増えている．佐々田ら¹⁾は，水辺公園の利用者の満足度と利用行動につ

表-1 公園，アンケート概要

公園名	A 公園	B 公園	C 公園
公園面積	1.10ha	0.21ha	0.15ha
利用状況	40人/日	30人/日	30人/日
公園施設	ため池，じゃぶじゃぶ池，グラウンド，遊具場，休憩所，樹木・花	じゃぶじゃぶ池，休憩所，樹木・花	グラウンド，遊具場，休憩所，樹木・花
公園風景			
配布方法	公園利用者に直接配布		
回収枚数	213 枚	196 枚	120 枚
有効回答数	175 枚	175 枚	106 枚

いて明らかにしているが，利用者の満足度とイメージについては明らかにされていない．本研究では，ため池のある公園，じゃぶじゃぶ池のある公園，水辺の無い公園の3つの公園利用者を対象にアンケート調査を行い，水辺の有無や水辺形態の違いにより，公園利用者の満足度やイメージにどのような違いがあるのか明らかにした．

2. アンケート概要

本研究では，公園内に水辺がある公園とない公園において，利用者に対して各公園の意識評価についてのアンケート調査を実施した．また，水辺に入れるかどうかにより公園利用者の意識が異なると考えられるため，水辺公園を2種類選定した．公園とアンケートの概要を表-1に示す．A公園は，ため池が整備されているため，グラウンド，遊具場等の公園要素のスペースが少なく，B公園はじゃぶじゃぶ池のみ整備されており遊具場などはない．また，C公園は市街地の中にあり，グラウンド，遊具場等の公園要素が整備された近隣公園である．

3. 三公園の満足度の比較

各々の公園利用者の公園に対する満足度を5段階で質問し，SD法 (Semantic Differential Method)により分析した結果を図-1に示す．なお，C公園は水辺がないため「水への触れやすさ」等の水辺に関する項目はない．

水辺のあるA公園とB公園の利用者は，水辺のないC公園の利用者に比べて，「さわやかさ」，「うるおい」，「見通しのよさ」などの項目において高い満足度を得ている(5%有意)．A公園とC公園を比較すると全体的にA公園の利用者の満足度は高い傾向にある．A公園はため池を有することから，「見通しのよさ」，「公園全体の広さ」といった項目においても公園利用者の満足度が高い．また，B公園とC公園を比較すると，B公園にじゃぶじゃぶ池があり，水遊びができることから，「清涼感」，「楽しさ」といった項目でも利用者の満足度は高い．

以上より公園内の水辺の存在が「さわやかさ」，「うるおい」，「見通しのよさ」などの満足度を高める役割を果たしていると考えられる．

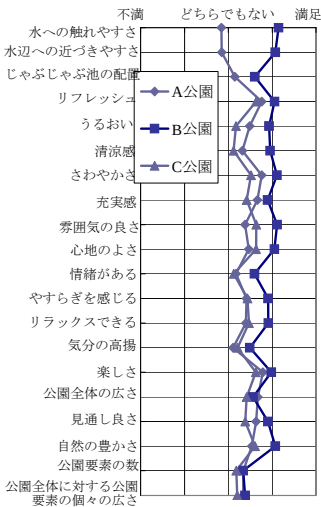


図-1 公園の満足度

キーワード：近隣公園，水辺，SD法，満足度

連絡先 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 関西大学工学部 環境システム研究室 06-6368-0939

次に、水辺が存在する公園における満足度の比較として、A 公園と B 公園の比較を行った。その結果、B 公園の利用者は、A 公園の利用者に比べて、ほぼすべての項目において満足度が高く、特に「水への触れやすさ」、「水辺への近づきやすさ」といった項目において満足度が高い(5%有意)。これは、A 公園では、ため池周辺は転落防止目的の柵が設けられており、ため池に近づくことができないことと、A、B 公園ともにじゃぶじゃぶ池は存在するが、A 公園のじゃぶじゃぶ池はごみなどが浮いており、あまり管理されていない。それに対して、B 公園のじゃぶじゃぶ池は管理人が常駐し、水質などの管理がなされているためである。

4. 三公園のイメージの比較

公園満足度が各々の公園イメージに左右されると考え、本研究では 3 つの公園のイメージについて調査を行った。各公園で実際に公園を利用した時のイメージについて SD 法による分析を行った結果を図-2 に示す。

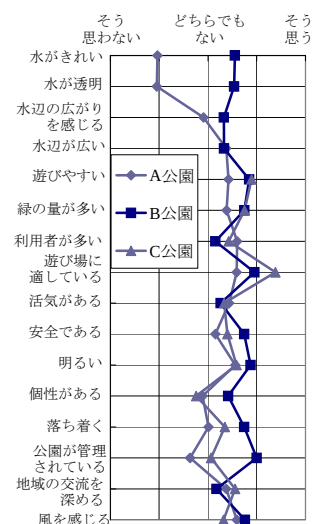


図-2 公園のイメージ

水辺が共に整備されている A 公園と B 公園の利用者の公園イメージを比較すると、「水がきれい」、「水が透明」、といった水質に関する項目および「安全である」、「管理されている」といった管理に関する項目において有意な差(5%有意)が見られ、B 公園は A 公園よりも利用者に良いイメージが持たれている。これは、B 公園には常時管理人が 1 人おり、掃除やじゃぶじゃぶ池の水質を定期的に管理していることから利用者の公園イメージが高くなったと考えられる。特にじゃぶじゃぶ池が整備されている B 公園の「管理」に関して良いイメージを持った利用者は「さわやかさ」、「うるおい」、「水辺への触れやすさ」といった水辺がもたらす心理的な項目で満足度が高い。このことから利用者の公園イメージは満足度に影響していると考えられる。また、ため池が整備されている A 公園の利用者は「水辺が広い」というイメージを持っているが、「管理」や「安全」といったイメージは低く、A 公園の利用者が持つ「水辺が広い」というイメージは、「さわやかさ」などの満足度を高める傾向にあった。しかし、水辺が「管理されていない」というイメージは、「水への触れやすさ」などの満足度を低下させる要因となっている。

次に、水辺の有無での(A, B 公園と C 公園)公園利用者の公園イメージを比較すると、A, B 公園の利用者は水辺があることから、「風を感じる」という項目においてよいイメージとなる傾向がある。この他にも、B 公園では C 公園の利用者と比べて、「管理」、「明るさ」、「個性」、「落ち着く」といった項目で C 公園よりも良いイメージをもつ傾向が見られた。これらは水辺があることによりイメージ評価が高いと考えられ、「うるおい」や「さわやかさ」といった満足度に影響していると考えられる。

全体を通して B 公園は、グラウンド、遊具場等の公園要素がないにもかかわらず、水辺があり、管理されていることから他の公園よりもよいイメージが持たれている。同じく水辺を持ち、管理があまりされていない A 公園は「水質」、「管理」に関する項目において、他の公園より悪いイメージになっている。これらの結果から、公園内の水辺は利用者の満足度を向上させる役割を果たしているが、管理があまりなされていない場合は、公園イメージが低下し、心理的な満足度の項目に影響を与えている。

5. まとめ

本研究では、水辺の有無が公園利用の満足度、イメージに与える影響を検討した。その結果、水辺がある公園は、水辺がない公園に比べて、「さわやかさ」、「うるおい」、「見通し」といった心理的項目に関して利用者の満足度を高める効果があることを示した。一方、水辺公園において、水質や清掃などの水辺の管理があまりされていなければ、公園イメージが悪くなり、満足度を低下させる要因になることも明らかにした。したがって、水辺を整備し、公園利用者の満足度の向上を図るためには、単に整備するだけではなく「水辺の管理」も定期的に行うことが重要である。

【参考文献】

- 1) 佐々田道雄, 畔柳昭雄: 海浜公園利用者の満足感と利用行動に関する研究, ランドスケープ研究, Vol.63, pp.643-648, 2000.3